

第73回日本酪農研究会

宮城県仙台市にて開催

日本酪農青年研究連盟（酪青研：檜尾康知委員長）主催の第73回日本酪農研究会が、11月16日、江陽グランドホテル仙台にて、全国から選抜された酪農経営発表が6題、意見・事例発表が5題の発表が行われました。今回も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より昨年同様、録画やリモート方式使用にて開催されました。

本研究会の開催目的は、日頃の経営成果と実践活動の発表に併せ、分析検討・知識技術の交流を通し、山積する諸問題の解決を図りながら、国際競争に勝ち残る我が国の酪農産業の未来を切り拓き、発展に寄与することにあります。

酪青研の檜尾委員長は「今年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻や為替問題等で酪農を巡る情勢は先行きが見通せない状況。このような時こそ環境変化に柔軟に対応出来る経営基盤が重要と思われる。東北での開催は9年ぶりで「復興から未来へ」と力強く歩む姿は酪農家への大きな勇気となります。」と挨拶されました。

研究会では、全国から選抜された酪農家6名による酪農経営発表と5名の意見・事例発表が行われ、酪農経営発表の中から「4代目が描く、100年目の牧場 ～世代を越えた地域の絆～」と題して発表した茨城地方連（茨城県）の外之内加奈（とのうちかな）さんが最優秀賞（黒澤賞）・

農林水産大臣賞を受賞されました。

当社からも外之内さんには雪印種苗賞とあわせて副賞のシクラメンを贈呈させていただきました。

その他の受賞者及び発表演題については、下記の通りです。

太田賞： 洲上浩台さん（兵庫県・神戸）「酪農で世界を幸せにする3つの考え方」

優秀賞： 堀井清司さん（北海道・磯分内）「自己完結可能な酪農経営を目指して ～土地と資源を最大限に活かす～」

改善賞： 松本良太さん（長崎県・長崎）「最小の労力で最大の利益を目指して！」

努力賞： 畠山伸吾さん（秋田県・秋田）「乳飼比60%からの挑戦 ～自給で育て、購入で搾るミニマリズム酪農へ～」

奨励賞： 蜂須賀俊光さん（北海道・南川口）「当たり前前のことを当たり前 ～継続と創意工夫で安心した経営を実現 ～豊かなワンオペ楽農～」、洲上浩台さんも受賞。

それぞれが選ばれて全国から集まった盟友の今後の酪農経営の参考になるであろう大変有意義な全国大会となりました。

新プロジェクトの取組み紹介について

雪印メグミルクと天使大学（札幌市東区）内サークル「ミルクラ」で新たなプロジェクトへの取組みが5月に始動されました。

プロジェクトの内容は、牛乳・乳製品を活用して社会の課題解決を目指すというものです。

「ミルクラ」は天使大学 栄養学科の管理栄養士を目指す学生による、牛乳・乳製品サークルで、料理作りや講演活動を行っています。雪印メグミルクによる飲用促進に向けた乳製品の無償配布をきっかけに、食育活動等で交流がスタート。「牛乳・乳製品を活かして社会課題解決に貢献したい」という想いが一致し、レシピを共同開発する取組みとなりました。

社会課題については「ミルクラ」のメンバーで5つの項目に着目し、課題に応じたレシピが考え出されました。

1. 「女性の痩せすぎ」➡「彩野菜で♪カッターチーズとタコス風大豆ミートのカラフル丼」
2. 「若者の朝食欠食」➡「カラフルカルボリゾット」

3. 「共食回数の減少」➡「あったかとり〜『カマンフォンデュ』鍋」

4. 「カルシウム不足」➡「カルシウムアップ！チーズin春巻き」

5. 「高齢者の低栄養」➡「卵ふわふわ味噌ミルクスープ」
レシピを考える中で生乳を生産する酪農家やそれらに関わる方々への思いと感謝を感じたとの事でした。今後は、このプロジェクトを通して牛乳・乳製品の消費拡大に貢献できるようになることを期待致します。

また、2023年2月12日（日）開催の「第64回 雪印メグミルク杯ジャンプ大会」では、今回のプロジェクトのお披露目と共同開発メニューをキッチンカーで販売されるとの事です。

是非とも会場で、牛乳・乳製品の栄養やおいしさを活かした社会課題解決メニューをご賞味いただければ幸いです。